

B

3 | 泉町二丁目商店街振興組合

時代の変化に合わせた情報発信で商店街を活性化

住 所	〒310-0025 茨城県水戸市天王町2-32 VILLAGE310-210		
U R L	https://www.izumi2.com/		
設 立	昭和51年12月	主 な 業 種	小売商業、サービス業
組 合 員 数	37人	出 資 金	6,000千円

■背景・目的

社会経済環境の変化等により商店街への来街者が減少するなか、商店街活性化のためには地域との共生と情報発信が必須と考え、情報誌・Web・SNS・デジタルサイネージ等で、情報発信している。また多世代が交流できる場として、空き店舗を活用したコミュニティスペース「マチノイズミ」を開設し、食堂や学習支援等の定期的な開催、無料の学習スペースとし提供等をしている。

■取組みの手法と内容

当商店街では、地域の魅力を内外に伝えるため理事長・副理事長が中心となり、時代の変化に合わせたメディア戦略を推進してきた。

平成8年よりコミュニティペーパー「IZM」を通じて、中心市街地の店舗・イベント情報を地域に発信。紙媒体の限界を感じ、より広い読者層に届くよう平成17年にウェブサイトとSNSに発信の場を広げた。さらに令和4年、商店街を訪れる人々に対する情報提供の向上を図るためデジタルサイネージを導入し、Wi-Fi環境も整備された。将来的には、災害時における緊急情報発信や海外の訪問者向けの多言語情報提供も視野に入れ、活用を検討している。

また「マチノイズミ」は、地域の人々が集う場所であると同時に情報発信の場としても機能している。「街全体を大家族のようなコミュニティにしたい」という思いのもと、多世代が利用できる場を提供。NPO法人やボランティア、地元大学生等と連携し「310食堂」として食の支援を行い、「StudyRoom310」として中高生向けの無料学習室を開放し学習支援を行っている。これらは水戸経済新聞や「セカンドリーグweb」といった地域のメディアにも取り上げられ、広く認知されるようになった。その結果、近隣のカフェ等で食堂や学習支援等の取組みが広がるなど、地域活性化の旗手としてその存在感を示している。

■成果とその要因

Web版「IZM」の展開とSNSへのシフトにより、情報を効率よく伝えることが可能になった。さらに「マチノイズミ」や「310食堂」の設置は地域の結束を強め、商店街の魅力アップにつながった。組合員の「この街をよくしたい」という共通の願いが原動力となり、その情熱は近隣の商店街にも良い影響を与えている。



IZM Web



デジタルサイネージ

事例
メディアを活用して取り組んだ

時代の変化をいち早く捉え、その時代に即した手段で幅広く情報発信したことが、商店街の認知度を高め街全体の活性化に繋がっている。